

(鹿児島市下福元町後迫字掃除山)

位置と環境

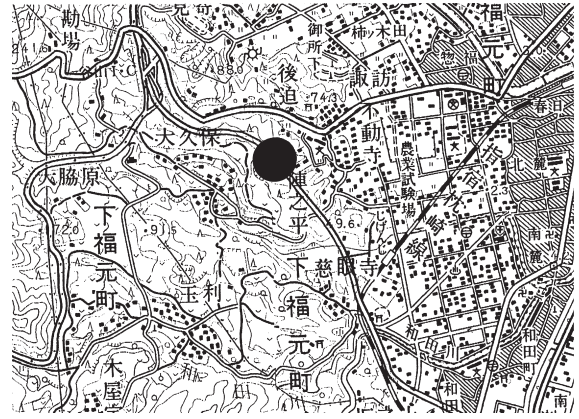
鹿児島市南部永田川の河口に広がる沖積平野を囲む低平な台地の東端に位置している。標高約80mの台地の末端が樹枝状に延びるが、やや北東に突き出す小丘陵の端部南側に遺跡は形成されていた。西谷山小学校西側背後の丘陵で、遺跡地からは谷山平野錦江湾 桜島を一望のもとに望むことができる。

調査の経緯

鹿児島県の計画した基盤交通網の整備事業の中で、谷山インターチェンジから国道225号につながる一般地方道玉取迫一鹿児島港線約2.5kmの建設計画に伴う発掘調査である。鹿児島市教育委員会が平成2年から3年にかけて調査した。

遺構と遺物

約11,500年前の厚い薩摩火山灰層を除くと黒褐色粘質ローム層が堆積していた。縄文時代草創期の包含層で土器・石器など約800点が出土した。



第1図 掃除山遺跡の位置

地形は南側に谷頭をなす深さ5mほどの小谷があり、遺跡は痩せ尾根の狭い平坦部から谷へ向かっての南向きの傾斜面約650㎡の範囲に形成されていた。

遺構は竪穴住居跡2軒、煙道付炉穴1基、円形や船形の配石炉6基、集石3基、土坑3基などである。

遺物は土器と石器である。土器は粘土紐を貼り付けた隆帯文土器が主体となっているが、隆帯に刻目をつけたもの、爪形、ヘラ状刺突、沈線を付けたものなどI～V種に分類されている。盛り付けなどに



写真1 掃除山遺跡 発掘調査全景 中央は1号住居跡検出状況(西から)平成2年12月

使用する浅鉢形の完形品が出土している。

石器は明確なもの160点がみられた。主なものをあげると、石鏃12点、磨石、敲石類5点、凹石2点、ハンマーストーン1点、礫器1点、石皿4点、砥石2点、石斧類12点、背部二次加工剥片9点、線刻礫1点、石核11点、楔形石器22点、スクレイパー類79点である。刃部が湾曲した石ノミ形の石斧と木ノ実などの製粉用具の石皿、土掘り、除草用具の鋏先のような打製石斧、骨、角などを割る楔形石器が注目された。これらの他、チップ・フレイク類が約2,000点出土している。

特徴

薩摩火山灰層に密閉されていた縄文時代草創期の生活跡が一括出現した状況で、当時の住居跡等の遺構の組み合わせと、土器・石器の遺物のセット関係が明らかになったことに大きな意味がある。草創期

における土器の出現と早期への編年、人々の定住論議まで様々な問題を提起した重要な遺跡である。

遺跡地一帯は調査終了後県道工事によって削平され、旧地形と環境は一変している。

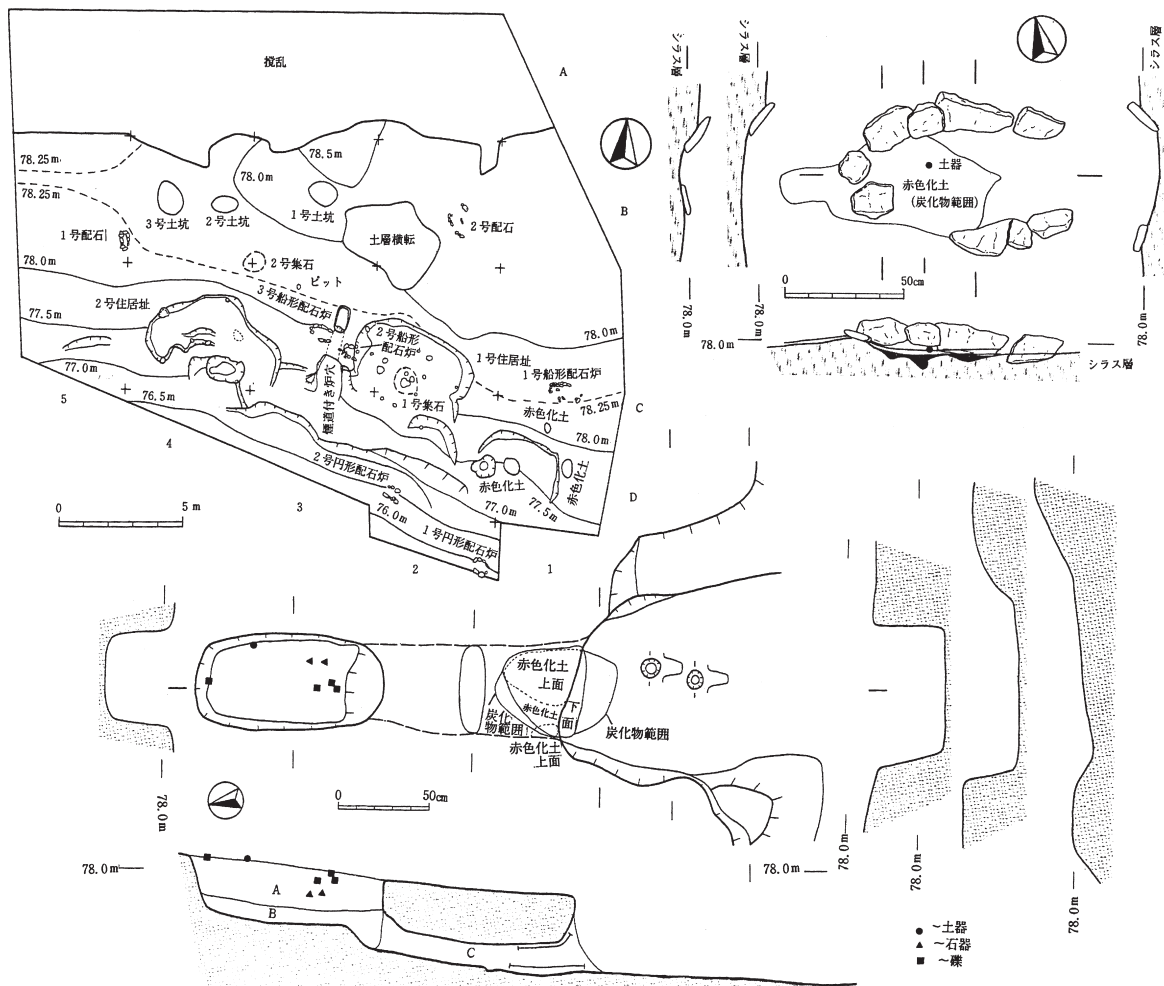
資料の所在

出土遺物および調査資料は、鹿児島市立ふるさと考古歴史館に保管され、一部は展示されている。

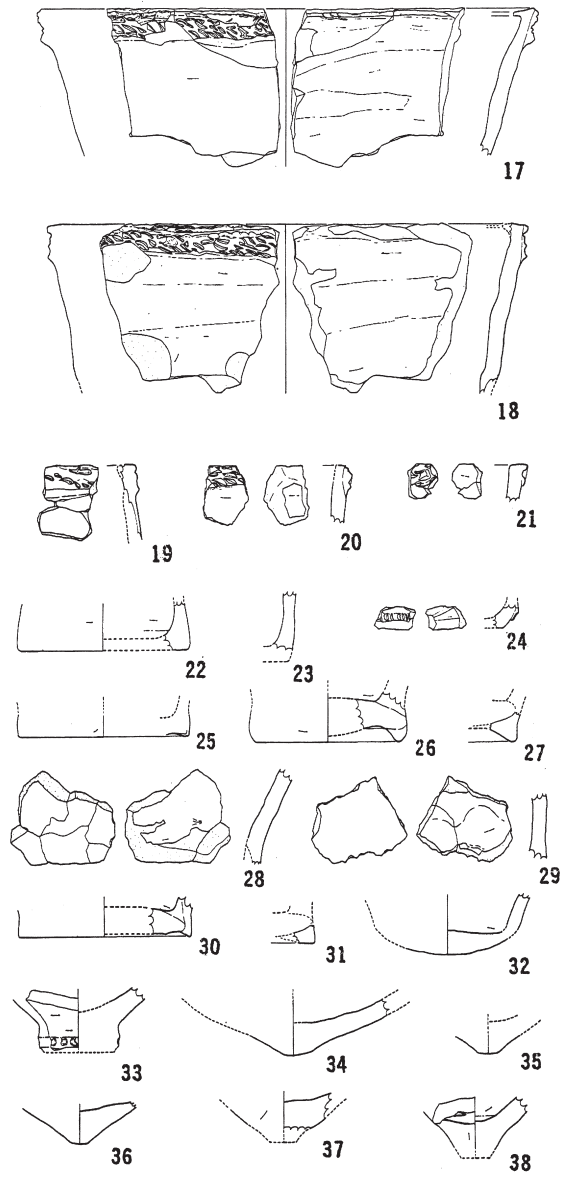
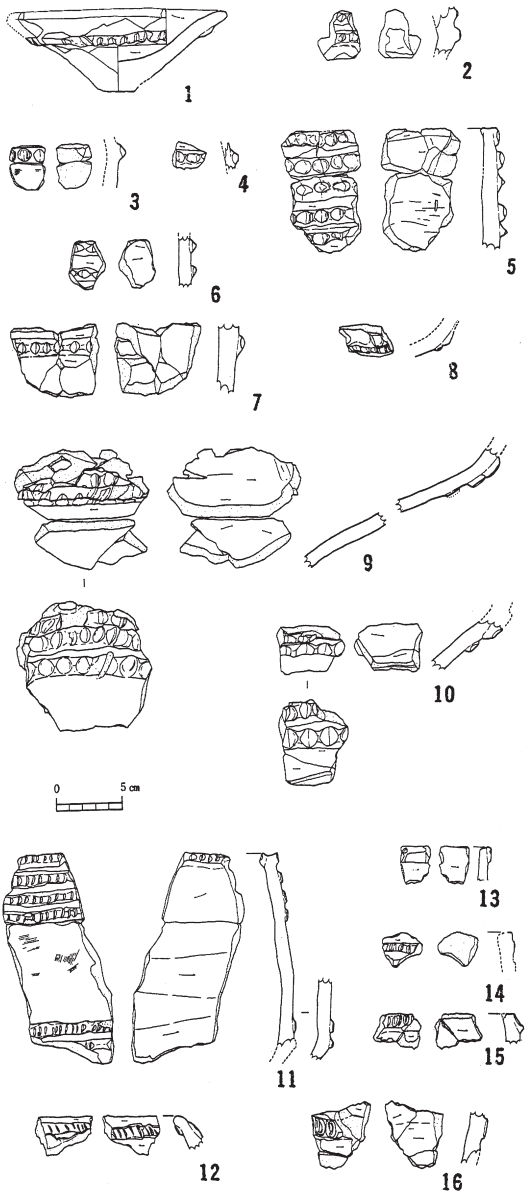
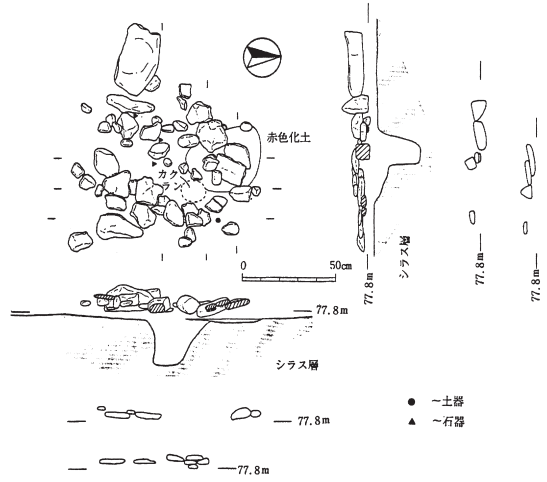
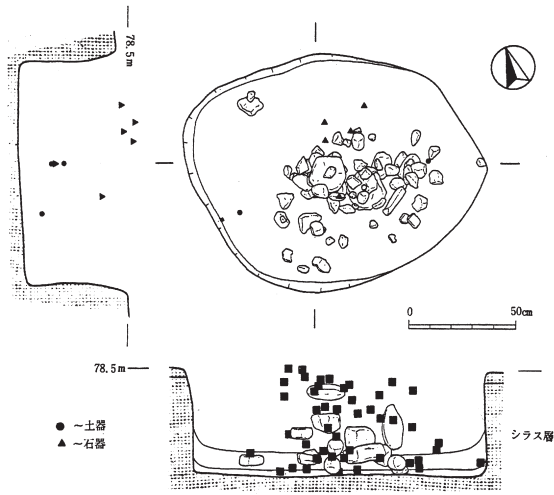
参考文献

鹿児島市教育委員会1992「掃除山遺跡」『鹿児島市委員会埋蔵文化財発掘調査報告書』12

(出口 浩)



第2図 遺構検出状況実測図 遺構配置図全体図 3号船形配石炉 煙道付炉穴



第3図 1号土坑・1号集石・出土土器(1~38)



第4図 出土遺物 (石鏃 (39~49)・楔形石器 (50~54)・石斧類 (55~61))